

新図書館等整備事業

講話会「図書館が日本を救う-公共図書館の可能性-」 開催報告

日 時 令和5年11月13日（月）15時00分～16時30分

場 所 別府市役所1Fレセプションホール

対象者 市職員 参加者 70名

講 師 常世田 良（とこよだ りょう）氏

（元立命館大学教授、高知県立図書館サービス計画推進委員会委員、
松戸市アドバイザー委員会委員長）

市職員を対象として本事業アドバイザー常世田良氏による講話会を開催しました。政策立案や政策課題の解決、各事業の調査研究等において、公共図書館が行える支援や連携などの役割をお話いただきました。

（講話の内容）

図書館は本を貸出するだけの場所ではなく、ビジネス、医療、法律、行政支援といった課題解決に役立つ場であり、事例として鳥取県立図書館のビジネス支援サービスや栃木県小山市立図書館での農業支援サービスの取組が紹介された。司書が行うこれらのサービスは、中小企業診断士など専門家も利用していることがわかった。

また、他市町村では既に市民が図書館を課題解決のために図書館を利用しており、行政職員もその対象であることから、これから図書館を活用して行って欲しいと話された。そして、子育て世帯にとって住みやすい街の理由として「図書館」がその一つの要因であることが、データとして示された。

参加者からは、図書館は本を読むところ、という今までのイメージが払拭された。開館後は業務上必要な資料や図書の調達、また、情報収集の場として活用したいと感じたなどの声があった。

講話会の様子

